

8 循環器病			
目標項目：8-1 自分の血圧を知っている人の割合の増加			
目標値 (平成 22 年)	ベースライン値 (H12 県民健康栄養 調査)	中間評価 (H17 県民健康調査)	直近値 (H22 県民健康・栄養 調査)
成人 80%以上	65.3%	77.6%	77.5%
直近実績値に係るデータ分析 (直近実績値がベースライン 値に対してどのような動き になっているか分析)	○平成 12 年から平成 22 年までで有意に増加した (片側 P 値<0.001)。		
データ分析上の課題 (調査分析をする上での課題 や留意点がある場合に記載)	○平成 17 年度の調査は、仙台市以外の地区で実施した調査である。		
その他データ分析に係る コメント	○男女別にみると、女性のほうが自分の血圧を知っている人の割合が 高い (平成 22 年結果：男性 74.5%，女性 80.2%)。 ○年齢階級別にみると、年齢が高くなるにつれ、自分の血圧を知って いる人の割合が高くなる (平成 22 年結果：20 歳代 47.5%，30 歳代 62.3%，40 歳代 75.5%，50 歳代 83.4%，60 歳代 93.4%，70 歳代以上 89.7%)。		
最終評価及びコメント	○改善した		評価 B
今後の課題及び対策の抽出 (最終評価を踏まえ、今後強 化・改善等すべきポイント)	○50 歳代以上については、概ね目標値を達成しているので、自分の血 圧値を知る機会として、健診受診を進めるなど、若い世代への普及 啓発が必要である。		

8 循環器病			
目標項目：8-2 血圧の正常値を知っている人の割合の増加			
目標値 (平成 22 年)	ベースライン値 (H12 県民健康栄養 調査)	中間評価 (H17 県民健康調査)	直近値 (H22 県民健康・栄養 調査)
成人 80%以上	69.4%	69.3%	75.5%
直近実績値に係るデータ分析 (直近実績値がベースライン 値に対してどのような動き になっているか分析)	○平成 12 年から平成 22 年まで有意に増加した (片側 P 値=0.001)。		
データ分析上の課題 (調査分析をする上での課題 や留意点がある場合に記載)	○平成 17 年度の調査は、仙台市以外の地区で実施した調査である。		
その他データ分析に係る コメント	○男女別にみると、女性のほうが血圧の正常値を知っている人の割合 が高い (平成 22 年結果：男性 73.7%，女性 77.1%)。 ○年齢階級別にみると、50 歳代、60 歳代で血圧の正常値を知ってい る人の割合が 80%を超えている (平成 22 年結果：20 歳代 55.9%， 30 歳代 72.7%，40 歳代 74.7，50 歳代 82.0%，60 歳代 82.6%，70 歳 代以上 77.4%)。		
最終評価及びコメント	○改善した		評価 B
今後の課題及び対策の抽出 (最終評価を踏まえ、今後強 化・改善等すべきポイント)	○50 歳代以上については、概ね目標値を達成しているので、若い世代 への普及啓発が必要である。		

8 循環器病			
目標項目：8-3 高血圧症予備群の推定数の減少			
目標値 (平成24年)	ベースライン値 (H18 県民健康・栄養調査) *参考値	中間評価 (H20 特定健診結果) *市町村国保	直近値 (H22 特定健診結果) *市町村国保
40～74歳男性 10%減少	84,500人	21.3%	22.8%
40～74歳女性 10%減少	73,300人	18.9%	19.3%
直近実績値に係るデータ分析 (直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析)	○平成20年と平成22年の特定健診結果を比較すると、該当者の割合は、男性でやや増加したが、女性では変わらない。		
データ分析上の課題 (調査分析をする上での課題や留意点がある場合に記載)	○ベースラインは、特定健診結果が把握できるようになってから、改めて設定することになっていたが、県内全体の特定健診結果の把握はできなかったため、市町村国保の結果で比較した(年齢調整済)。 ○該当者の定義について、ベースライン値では、収縮期血圧130以上140未満又は拡張期血圧85以上90未満で高血圧薬の服薬者を含まないが、特定健診結果では、服薬者が含まれている。		
その他データ分析に係るコメント	○高血圧の服薬者割合は、平成20年男性23.6%、女性20.6%、平成22年男性25.2%、女性20.9%とやや増加傾向。		
最終評価及びコメント	○男性ではやや増加した	評価 (D)	
今後の課題及び対策の抽出 (最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイント)	○県民全体の血圧レベル低下のためのポピュレーション対策(減塩、肥満解消、野菜果物摂取量増加、身体活動増加、適正飲酒、喫煙者減少等)をさらに推進する必要がある。		

8 循環器病			
目標項目：8-4 高血圧症有病者の推定数の減少			
目標値 (平成24年)	ベースライン値 (H18 県民健康・栄養調査) *参考値	中間評価 (H20 特定健診結果) *市町村国保	直近値 (H22 特定健診結果) *市町村国保
40~74歳男性 10%減少	238,700人	28.8%	24.6%
40~74歳女性 10%減少	180,800人	21.3%	17.4%
直近実績値に係るデータ分析 (直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析)	○平成20年と平成22年の特定健診結果を比較すると、該当者の割合は、男女とも減少している。		
データ分析上の課題 (調査分析をする上での課題や留意点がある場合に記載)	○ベースラインは、特定健診結果が把握できるようになってから、改めて設定することになっていたが、県内全体の特定健診結果の把握はできなかったため、市町村国保の結果で比較した(年齢調整済)。 ○該当者の定義について、ベースライン値では、収縮期血圧140以上又は拡張期血圧90以上、又は高血圧薬の服薬者だが、特定健診結果では、基準値以上に満たない服薬者は含まれていない。		
その他データ分析に係るコメント	○高血圧の服薬者割合は、平成20年男性23.6%、女性20.6%、平成22年男性25.2%、女性20.9%とやや増加傾向。		
最終評価及びコメント	○男女とも減少した		評価 (B)
今後の課題及び対策の抽出 (最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイント)	○県民全体の血圧レベル低下のためのポピュレーション対策(減塩、肥満解消、野菜果物摂取量増加、身体活動増加、適正飲酒、喫煙者減少等)をさらに推進する必要がある。 ○県民に対し、高血圧の疾患リスクや治療の必要性等について正しい知識の普及が必要である。		

8 循環器病			
目標項目：8-5 脂質異常症有病者の推定数の減少			
目標値 (平成24年)	ベースライン値 (H18 県民健康・栄養調査) *参考値	中間評価 (H20 特定健診結果) *市町村国保	直近値 (H22 特定健診結果) *市町村国保
40～74歳男性 10%減少	83,500人	10.2%	11.6%
40～74歳女性 10%減少	82,900人	2.3%	2.7%
直近実績値に係るデータ分析 (直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析)	○平成20年と平成22年の特定健診結果を比較すると、該当者の割合は、男女とも増加している。		
データ分析上の課題 (調査分析をする上での課題や留意点がある場合に記載)	○ベースラインは、特定健診結果が把握できるようになってから、改めて設定することになっていたが、県内全体の特定健診結果の把握はできなかったため、市町村国保の結果で比較した(年齢調整済)。 ○該当者の定義について、ベースライン値では、HDLコレステロールが40mg/dl以上又は、脂質異常症薬の服薬者だが、特定健診結果では、基準値以上の服薬者は含まれていない。		
その他データ分析に係るコメント			
最終評価及びコメント	○悪化した		評価 (D)
今後の課題及び対策の抽出 (最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイント)	○県民全体に対するポピュレーション対策(食生活改善、身体活動増加、適正飲酒、喫煙者減少等)をさらに推進する必要がある。 ○県民全体の血中脂質レベル低下のためのポピュレーション対策(肥満解消、脂肪エネルギー比率の適正化、身体活動増加、適正飲酒、喫煙者減少等)をさらに推進する必要がある。 ○県民に対し、脂質異常症の疾患リスクや治療の必要性等について正しい知識の普及が必要である。		

8 循環器病			
目標項目：8-6 死亡率の減少			
目標値 (平成24年)	ベースライン値 (H18人口動態統計)	中間評価 (一)	直近値 (H22人口動態統計)
脳卒中による年齢調整死亡率の減少(人口10万対) 男性 63.6 (10%減少)	70.7	—	61.8
脳卒中による年齢調整死亡率の減少(人口10万対) 女性 38.3 (10%減少)	42.5	—	33.9
虚血性心疾患による年齢調整死亡率の減少(人口10万対) 男性 34.7 (10%減少)	38.6	—	30.3
虚血性心疾患による年齢調整死亡率の減少(人口10万対) 女性 15.7 (10%減少)	17.4	—	13.6
直近実績値に係るデータ分析 (直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析)	○脳卒中による年齢調整死亡率は、男女とも減少し、目標を達成した。 ○虚血性心疾患による年齢調整死亡率は、男女とも減少し、目標を達成した。		
データ分析上の課題 (調査分析をする上での課題や留意点がある場合に記載)	○目標は平成24年度だが、平成22年の結果で評価している。		
その他データ分析に係るコメント	○脳卒中による年齢調整死亡率は、平成2年の男性117.7、女性82.9と比較すると20年間で男女ともほぼ半減しており、減少傾向は顕著である。 ○虚血性心疾患による年齢調整死亡率は、平成2年の男性44.6、女性23.2と比較すると、この20年間で男性約30%、約40%減少しており、減少傾向は顕著である。		
最終評価及びコメント	○男女とも目標値に達成した	評価 A	
今後の課題及び対策の抽出 (最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイント)	○主要な危険因子となる高血圧、脂質異常症、糖尿病を予防するため、県民全体に対するポピュレーション対策をさらに推進する必要がある。 ○疾病の重症化予防を徹底するため、医療機関等での治療継続などについて地域医療計画等で推進していく必要がある。		